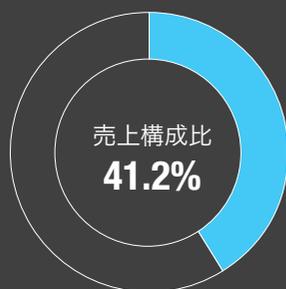


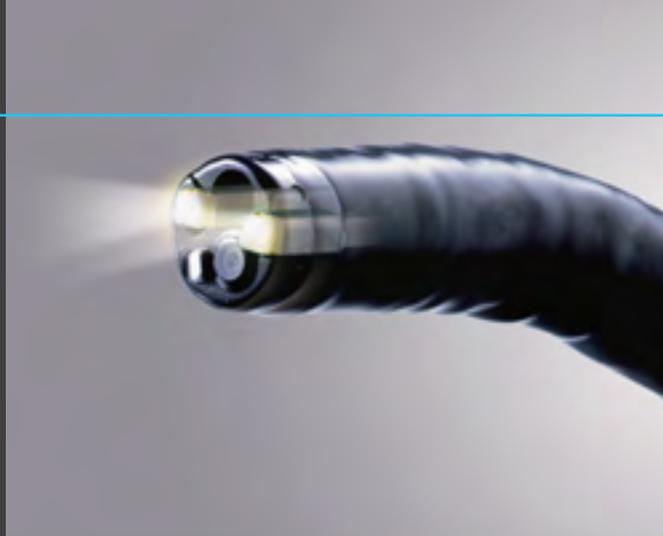
MEDICAL BUSINESS

医療事業



オリンパスは、1950年に世界で初めて実用的な胃カメラを開発し、日本人の死亡原因のトップだった胃がんの早期診断方法の確立に大きく貢献しました。その後、ファイバースコープ、そして、ビデオスコープの普及に努め、内視鏡を使った様々な検査、治療方法の開発にも、力を尽くしてきました。

今、医療の現場で、「低侵襲治療」の流れが強まっています。従来は開腹が必要だった胃がんや大腸がんの手術が、内視鏡を使い皮膚に小さな穴を開けるだけで、場合によっては、全く傷をつけることなく行うことが可能になったのです。この結果、患者様の身体的な負担が減り、QOL(Quality of Life:生活の質)の向上にもつながっています。





Main Products

消化器内視鏡分野

内視鏡システム:

軟性・超音波ビデオ/ファイバースコープ、ビデオプロセッサ、光源装置、液晶モニターなど

内視鏡システム周辺機器:

ビデオプリンター、自動洗浄消毒装置

カプセル内視鏡 など



外科分野

外科治療・手術用医療機器:

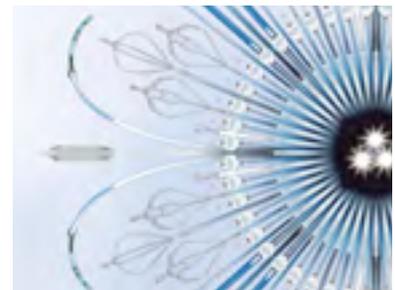
外科用ビデオ内視鏡システム(外科用スコープ、ビデオプロセッサ、光源装置、液晶モニターなど)、内視鏡下手術用周辺機器、電気メス など



処置具分野

内視鏡治療のための各種処置具:

生検鉗子、ポリープ切除用高周波スネア、把持鉗子、結石採取・破碎用バスケット、止血関連処置具など、診断用・治療用別に約1,000種類





医療事業グループ
プレジデント

田口 晶弘

MEDICAL BUSINESS

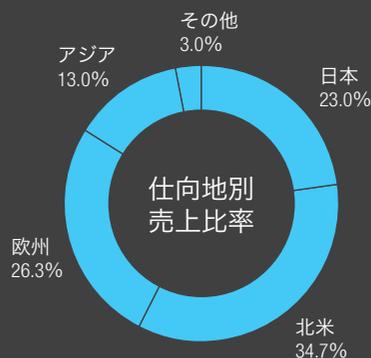
医療事業

連結売上高

3,492 億円

連結営業利益

682 億円



(2012年3月期末実績)

2012年3月期の業績と取り組み

上半期は、主力の消化器内視鏡(ルセラ・シリーズ)が東日本大震災の影響を大きく受けましたが、下半期には製品供給が回復し業績は堅調に推移したことから、通期の連結売上高は前期比2%減、営業利益は同5%減にとどまりました。

また、当社については、一連の損失先送りの影響を心配していましたが、取引先やドクターの方々にご理解をいただき、お陰様でビジネスへの影響は限定的なものにとどまり、堅調な需要に支えられました。

なお、為替の影響を除くと、連結売上高は前期比3%増、営業利益は同4%増となり、医療事業は確実に売上成長を実現しています。

新製品の状況

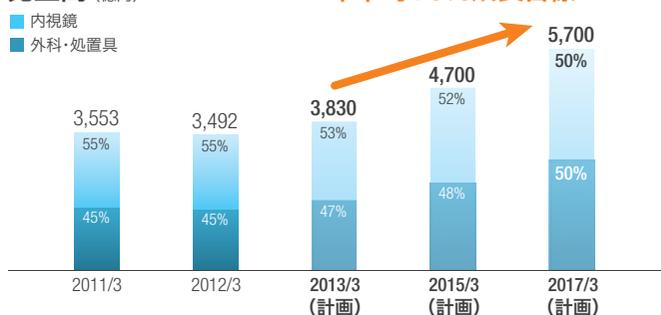
内視鏡、外科・処置具すべてにおいて、今後の成長ドライバーとなる戦略新製品の開発が進捗し、2012年春までに新製品を投入しました。

消化器内視鏡分野では、次世代の内視鏡基幹システム「イーヴィス エクセラ」シリーズを投入したほか、当社初の新興国向け普及価格モデル「アクセオン」も投入しました。

外科・処置具分野では、外科用のビデオ内視鏡システム「ビセラ・エリート」の投入に加えて、高周波と超音波のエネルギーを同時に出力できる世界初の外科手術用エネルギーデバイス「サンダービート」を投入しました。

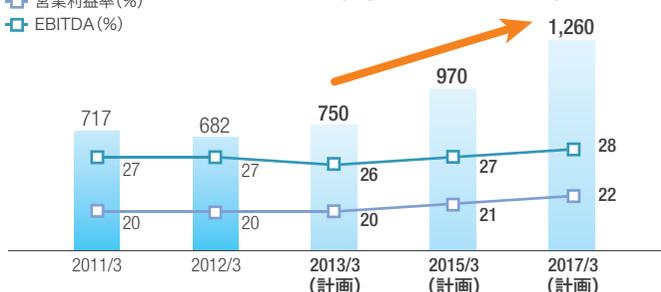
売上高 (億円)

年平均10%成長目標



営業利益/営業利益率/EBITDA

年平均13%成長目標



中期ビジョンにおける事業戦略

医療事業

➡ 収益、成長のドライバー

医療事業を取り巻く環境

先進国を中心に急速な高齢化が進展する中、患者様のQOL向上の要求や医療コスト、社会保障費の抑制が各国で急務となっています。オリンパスは、早期発見診断から低侵襲治療のニーズに応えるデバイスの開発製造技術を持つ、世界で唯一のメーカーです。新しい低侵襲治療に必要なデバイスと、その新しい治療に深く結びつく新しい診断方法の両方を同時に開発出来るという、極めて戦略的に優位なポジションを強みに、さらなる事業拡大を図ります。

基本方針

1

世界シェア70%を超える消化器内視鏡分野は、さらなる基盤強化を進め高シェアを確保しつつ、年平均9%の成長を狙います。

2012年4月、この中期ビジョン初年度に、内視鏡基幹システム「イーヴィス エクセラ」シリーズを約7年ぶりに欧米向けに投入しました。この新製品には、改良したNBIを搭載していますが、このような差別化技術を搭載した新製品を今後も継続的に投入し、圧倒的なシェアの維持と高成長を目指します。

基本方針

2

外科分野は、年平均14%の成長を狙う成長ドライバーです。診断から治療への流れの中、高い成長を目指します。

外科分野の戦略の1つは、約5年ぶりに投入した外科用のビデオ内視鏡システム「ピセラ・エリート」の投入です。極めて高い解像力と色再現性を強みに、手術室イメージング領域で3年後にグローバルシェア25%の獲得を目指します。

2つ目の戦略は、高周波と超音波のエネルギーを同時に出力できる世界初の外科手術用のエネルギーデバイス「サンダービート」が成長のキードライバーとなり牽引することです。

今後、Gyrusの強い販売網を最大限に活用し、この分野の業績拡大を図ります。

基本方針

3

新興国市場での売上を拡大し、年平均23%と高い成長を目指します。

中国を中心とした新興国では、経済の急速な発展に伴い、医療への需要も急速に高まり当社もこれらに応じた事業戦略を推進してきました。特に、中国ではすでにこの数年25%を超える高い成長を達成してきました。

新興国で重要なことは、内視鏡を使えるドクターを増加させることです。このニーズに応え、2008年には上海に、2010年には北京に、先進的なトレーニングセンターを設立し、内視鏡医の育成と手技の普及で成果を上げてきました。今後、アジア地域で20カ所以上のトレーニングセンターを開設し、この取り組みをさらに加速させます。

加えて、成長著しい新興国の高いニーズに対応し、当社初となる新興国向けの普及価格モデル「アクセオン」を導入しました。これにより、一般層への内視鏡検査を普及させ、さらなる顧客層の拡大を図ります。

観察性能の向上 さらに進化したNBI

オリンパス独自の技術“NBI”を搭載し、がんの早期診断・早期治療に貢献

NBI(Narrow Band Imaging=狭帯域光観察)とは、通常の白色光とは異なる光を使用することで、これまで見つけにくかった病変が発見しやすくなる技術です。具体的には、血液中のヘモグロビンに吸収されやすい波長の光を当てること、毛細血管の集まりなどを明確に観察できます。

※消化器内視鏡ビデオスコープシステムEVIS EXERA III (イーヴィス エクセラ スリー)は日本と英国を除く、欧州・米国・アジア・オセアニア・中近東アフリカ地域に法規制対応後に順次導入しています。

光デジタル技術“NBI”の改良

